

新年にあたって

日高農業改良普及センター所長 福谷 洋一



新年あけましておめでとうございます。

生産者の皆様には、日頃より普及活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、6月後半から7月前半と8月後半に低温となったものの、多くの作物では平年並から平年をやや上回る生育となりました。

このような結果となりましたのも生産者の皆様の高い営農技術と日頃からの適切な管理作業の賜物であり、心より敬意を申し上げます。

品目別の作柄につきましては、水稲は作業や生育に遅れは見られず、幼穂形成期後や登熟初期に気温が平年を下回ったものの、大き

な影響はなく稔実初数は平年並となりました。作況指数は103のやや良となり、品質も良好なものとなりました。

牧草の一番草は、生育は平年よりやや早く、収穫作業も平年より早く進みました。収量は、全般に降雨が少なめに推移したこともあり、平年をやや下回りました。二番草は、収穫始めが降雨でやや遅れたもののその後は順調に進みました。二番草収量は、生育初期に降雨が少なく生育の停滞が見られ、平年を下回りました。

飼料用とうもろこしは、春作業は順調に進み、生育も平年よりやや早めに推移しました。雌穂の黄熟や収穫作業は平年並となりましたが、収量は平年を上回る水準となりました。

野菜では、主力品目であるミニトマトは、加温促成作型で生育は概ね順調だったものの、やや小玉傾向となりました。抑制作型では、8月初旬の高温により着果不良が見られ、8月後半から9月初旬の低温により生育の遅れが見られました。品質は全般を通して良好で

したが、小玉傾向と8月の高温による着果不良で収量はやや下回りました。販売金額は、単価の高値が続き、8億円を達成した前年を大きく上回り、9億円超えの記録となりました。

ほうれんそうなどの葉菜類は、期間を通して順調に推移し、収量・品質とも平年並となり、取扱数量・単価とも昨年を上回りました。黒毛和牛の素牛出荷頭数は、前年比で見ると5%の減少となりましたが、南北北海道市場での取引価格は、一頭単価が前年より15%上昇し、販売金額では前年を9%上回る結果となりました。

軽種馬は、厳しい状況にはありますが、市場での売却頭数、売却率、平均価格とも前年を上回る回復基調に明るい兆しを感じた生産者も多いことと思います。

また、ホッカイドウ競馬の発売金額は169億円となり、前年以上の実績となりました。特にAiba静内の発売金額は昨年到现在に続き順調で、町ぐるみでの応援が根付いてきたことが伝わります。

TPP交渉は、昨年10月に大筋合意に至り、今後、関税撤廃・自由化に向けての動きが、北海道農業に与える影響は小さいものではないと見られます。

当普及センターでは、ミニトマトを中心とした野菜生産振興と黒毛和牛の良質生産に向けた取組強化など、新規就農者の受け皿としての機能を備えた産地形成を目指し、生産者・関係機関の皆様と共同しながら取り組んで参ります。併せて、軽種馬においては、「強い馬づくり」に向けた「強い草づくり」支援に努めて参ります。

また、生産者と消費者が安全・安心な農畜産物で繋がるべくクリン農業の実践やGAP認証への支援や生産者の所得確保に向け、地域資源を活用した6次産業化推進に向けて活動して参ります。

今後とも、人が残る・残れる地域を目指し、農業がその中心的役割を担えるよう、地域振興に寄与して参りたいと思っております。

生産者の皆様におかれましては、今年も更なる発展の年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

